

第1回臨時会が終わりました！

平成27年1月26日開催された第1回臨時会では、議案第1号及び議案第2号について審議されました。

今回の臨時会は質疑や討論などが活発に行われましたので、その概略をお知らせします。賛否等詳細については「議会の結果」をご覧ください。

議案第1号 平成26年度八雲町一般会計補正予算（第13号）

今回の補正は歳入歳出それぞれに2億68万3,000円を追加し、予算総額を119億3,919万3,000円とするものです。

増額する理由は、

障害者指定相談事業所が開設されたことで、日常生活用具の給付が増えたことにより83万1,000円、総合病院事業費の収支に不足が見込まれることから特別繰出1億2,943万円、昨年12月の地域療育センターの学校調査の結果、本年4月落部小学校に入学する児童の障がいに対応するため玄関スロープ設置等が必要となったことで、学校施設の改修費用1千2万2千円、また、旧社会福祉センター及び旧小牧荘の解体に起債を確保できたことから、当初解体にあてるつもりであった6千400万円を今後の公共施設整備を見越して「公共施設整備基金」に積み立てます。

これらの支出は、日常生活用具給付金は国及び道からの地域生活支援事業補助金、総合病院事業会計への特別繰出金は財政調整基金から繰入、その他、町有建物解体事業債や普通交付税等により賄われることや、学校施設整備は年度内に工事が完了しないため繰越明許費（年度内に支払いが終わらない予算）とすることが説明されました。

下記の様な質疑・討論のあと、賛成13、反対2で原案のとおり可決されました

◎主な質疑

Q. 落部小学校の改築は4月入学に間に合うのか？

A. 必ず間に合うとは約束できないが、間に合わなかった場合でも入学する児童が学校生活に不自由を感じないように対応したい。

Q. 日常生活用具が増えたことの内容をもっと詳しく教えてほしい？

A. 指定相談事業所が開設され、相談件数が多くなったことにより給付件数が増えた。障がいのある方が必要とするものを、相談窓口の職員と協議して給付を受けるような対応をしている。

Q. 旧社会福祉センターと旧小牧荘の解体工事費を一般財源から町債に変更したのは、どのような理由からか？

A. 一般的には建物を解体し新たなものを建てる時以外、起債は認められないが、過疎債のソフト事業で将来にわたって解体後、すぐには利用が見込まれないもの、建

物があることによって危険な場合や著しく景観を損ねる場合は認められることが分かったので、変更することにした。一般財源は100%町費であるが、起債の場合にかかる事業費の70パーセントが交付税で返ってくることになると思うので、過疎債を利用した方が有利である。

Q. 今回、総合病院の給与費が不足し、このような形で補正を組むことは著しく信用を損ねたことになる。善管注意義務違反にあたるのではないか。誰も責任はとらないのか？

A. 金銭的に損害を与えたわけではないので処分はしないが、嚴重に注意する。

Q. 人件費をカットして積み上げてきた財政調整基金を、取り崩して病院へ繰り入れることが続けば職員のやる気がなくなるのではないか。

A. 病院は収支のバランスが崩れている状況にある。財政調整基金しか財源がないので、皆さんにご相談しながら、今はそこから繰り出すしかない。ここ2、3年は厳しい状況にあるので何とかそこを切り抜きたい。その後も特別繰出を含めて7億以上の繰出が必要なら、病院の経営内容そのものを考えなければならないという病院長の発言もある。平成28年3月まで賃金カットの期間があり、その後は出来れば職員の努力に報いるようカットはしたくないが、その時の状況を見ながらになるので明言はできない。

◎ 討 論

・ 反対討論

非常に反対しづらい内容の議案ですが、議会の一部にある思いを届けたくて反対討論をします。

町財政に一番効果があるのは、病院の健全化です。試合が壊れるまで、このピッチャーに投げさせるのか。今後のことも考え、また、他に発揮する能力もあると考えると、リリーフに託す準備をなるべく早く披露してもらえれば、現場で働く職員も本庁の職員も、将来に対して今よりは明るいものが見えるのではないか。

今、議場で繰り広げられた議論を聞いて思い至りました。

大切な財調を切り崩して、この補正予算を組んでいることを重く考えて、私は給与の支払いにギリギリ間に合うところまで、まだ数週間あると思います。

ぜひ、この議場の議員にもご協力願いたいのですが、新しい体制が見える状況を、この議案に反対して時間を作り出すことが出来るのではないかと思い、反対させていただきます。ぜひ、深く、深く考えて行動を共にしていただきたい。

・ 賛成討論

ただ今、お話しのありましたことは、一理あると思います。

しかしながら、この補正予算につきましては、これからの高齢者対策や障がい者対策に必要な、日常生活用具や落部小学校の改修工事などもあります。

先ほど来、多くの議論がありました病院関係のみならず、八雲町全体でどのような福祉向上を図っていくかという事が必要であります。公営企業においては公共性と経済性の両天秤の中で、こういった手法があつて、それが町民の福祉向上または二次医療圏の方々の福祉向上につながるのかという部分にあります。そのバランスのとり方を、ぜひ理事者の方々にはしっかりと方向性、考え方を出していただくことが、町全体の歳入の確保、歳出のありかたとして見えてくる部分でございます。

そして、先ほど職員のお話もありました。現在、モチベーションが下がっている事と思います。しかしながら公務員としてやっていくと宣誓した立場、その中でそうやって自分の役割を果たしていくのかというのがみなさんの仕事であります。是非、前向きにやれるような環境を議会、また理事者の方々と相談しながらやって行くことが必要なかと思っておりますので、議員各位にも同じ方向性で考えていただいて、補正予算 13 号に対しては賛成の立場で討論させていただきたいと思ます。よろしく願いいたします。

議案第 2 号 八雲町病院事業会計補正予算（第 3 号）

総合病院分の説明

人事院勧告等による給与費及び電気使用料の追加、並びに医師住宅、看護師宿舎解体に係る起債の追加による財源変更による補正です。

給与費の増額は人事院勧告による給与及び勤勉手当の支給率の改定、職員増及び積算誤りによるもので、給与で 1,124 万 6,000 円の減額をし、手当で 7,268 万 2,000 円、賃金で 7,543 万 4,000 円、法定福利費で 351 万 2,000 円、退職手当組合負担金で 49 万 2,000 円となります。

不足額の計算にあたっては、給与費全体を見直し不用額があるものは全て不足分に充当し、必要最小限の補正としています。

光熱水費の追加は、電気料の値上げにより電気使用料に不足が見込まれるので 915 万 6,000 円を補正します。

補正の合計額は 1 億 5,003 万円になり、これらは一般会計からの繰入金により賄われます。

また、医師住宅、看護師宿舎の解体工事につきましては、本館棟建設の付帯工事として認められ起債が使えるようになったので、一般会計出資金から企業債へ財源内訳を変更するものです。

国保病院分の説明

診療収益の増に伴い薬品費が増えたこと、看護師派遣業務の支払いを委託料から賃金へ振り替えることの補正です。

看護師の派遣業務は業者によって、委託料または賃金で支払う契約になっております。今年度は賃金で支払う業者からの派遣が多くなったため、委託料を減額し賃金へ 985 万

7,000円を振り替えるものです。

材料費2,558万6,000円の追加は、診療収入の増により薬品費が増えたことに伴う増額です。

下記の様な質疑・討論のあと、賛成13、反対2で原案のとおり可決されました

◎主な質疑

Q. 全員協議会や常任委員会でも説明は受けているが、なぜ、こんな甘い見積もりになったのか改めて伺う？

A. 今年度の予算作成にあたり、収支均衡を基本としているので人件費を厳しく見てしまった。給料はなんとか間に合っていたが、手当や変動の多い賃金について不足となった。もう少し余裕を持った当初予算を組むべきであった。厳しく査定をしすぎたことが原因であり反省している。

Q. 収入が落ちた原因は色々聞いたが、何か工夫することはできなかったのか？

そもそも、26年3月に出示された収支見通しでは、一般会計からの繰り入れは平成34年度まで2億円であったはずだ。信頼の出来ないものであったのか、いつも裏切られるような内容では不味いと思うが、どう認識しているのか？

A. 医師確保が根幹であることは変わっていない。

医師の増、加算を取るための職員を増員し収益を見込んでいたが、予想以上の入院患者の減であった。議会からの提言や今年度の状況を精査し、来月には今後の見通しも含めて示したい。総合病院の説明には裏切られるということがないように、内部で精査し示したい。

Q. 消費税の増や工事による患者数の減という説明があったが、21年度から22年度にかけてはもっと減っていたし、24年度から25年度にかけても減っている。工事は分かっていたことである、本気で対応をしていたのか？分析は正しいのか、大切なことを見逃していないのか？

A. 全道的に患者が減っていて、各病院では消費税しかないと分析している。それだけではなく医療の提供に一部信頼を失うものもあつたらうし、日々の診療に於いて、私どもの病院でできることでも他の病院に流れていることも事実であると思う。

一概には言えないが、一つ二つの原因が特定できれば、そこを直していけば戻るといふこともあるだろうが、私としては職員の待遇の基礎を含めて全体的に信頼を落としている部分があつたと考えている。

信頼を取り戻すために、どういう手だてがいいのかを含めて内部で考えて行く。

Q. 年度末の資金不足はどのくらいになるのか。

A. 3億5,900万円ほどになる。今回の補正を認めてもらえれば、2億超の資金不足となる。

Q. 麻酔科医を確保して、手術件数を上げたいという話があったが、本年度の手術件数は何件か？総合病院で出来る手術なのに他所の病院へ行くケースについて、分析しているのか？

A. ご家族が町外にいるため、そちらへの紹介を求められることなどあるが、患者の信頼を得られず他所へ行くケースもある。信頼を得られるよう内部の連携なども含めて、総合病院で出来ることは総合病院でやっていただきたいと思っている。

Q. 総合病院には会議がたくさんあるが、事務は必ず入っている。事務方が色々なもの整理、分析して伝えて行くべきではないか？

A. そのとおりであると思う。まだまだ努力が少ないと感じる。

◎討 論

・ 反対討論

色々な議員の発言はもつともであり、それらを考慮してなお一連の病院事業について不満がたまっている。また、今回は事務的に重大なミスがある。

このまま、全員が異議なし、賛成の形はとりたくない。

こと、給料のことなので断腸の思いではあるが、議員として明確に意思を示すべく、ここに反対の討論とします。

・ 賛成討論

どんな理由があろうと給料は絶対に支払わなければならないので、私は賛成します。ただし、職員には何の説明もなく、給料が払えないかもしれないと新聞で報道された。また、今回議会で駄目かもしれないと、職員は非常に不安だと思う、その不安をしっかりと払拭していただきたいと言うことを付けくわえて、賛成したいと思います。

私たち八雲町議会は、八雲総合病院が八雲町民、そして二次医療圏の医療を必要とする全ての人のため、真に求められる病院であり続けるよう応援していきます。

地域医療は、地域の住民の手で守り育てていきましょう。